

令和3年度 九州農政局国営事業事前評価技術検討会（第1回）
議事概要（一ツ瀬川地区）

1. 日 時：令和3年6月4日（金）9:00～11:30
2. 場 所：WEB形式による審議
3. 対象地区：国営かんがい排水事業「一ツ瀬川地区」
4. 出席者：九州農政局国営事業事前評価技術検討会委員（五十音順）
井上 眞理 九州大学 名誉教授
坂口 眞理 特定非営利活動法人 熊本消費者協会理事
弓削 こずえ 佐賀大学農学部 准教授

5. 議事について

九州農政局国営事業事前評価技術検討会（第1回）を開催し、令和4年度新規着工予定の国営かんがい排水事業「一ツ瀬川地区」について、関係資料の検討を行い、チェックリストに定める各評価項目について審議された。

議事の詳細は以下のとおり。

一ツ瀬川地区の概要

（委員）

資料のセンサスデータが平成27年までとなっているが、最新のデータはないのか。

（農政局）

センサスデータは今年更新される予定であるが、現在のところデータは公表されていない。

（委員）

生態系の保全の写真は事務局のオリジナルの写真か。写真の出典先を記載すること。

（農政局）

高鍋湿原の写真だけが事務局のもので他は業務を委託している会社から入手したものである。写真の出典先を記載する。

（委員）

資料のグラフをみると早期水稻に対しての水利用の変化について、どのように見たらよいのか。例えば、中干しの影響が用水量のグラフに反映されていないのではないか。

（農政局）

地域全体での水利用を取りまとめており、個々の用水量が反映されるものではない。個別の用水量については、次回説明する。

（委員）

事業実施後の効果のうち、防霜用水等の効果額は示されていない。効果額の説明が必要ではないか。

（農政局）

次回説明する。

新規地区採択チェックリスト、効用に関する説明資料、
新規地区採択チェックリスト判定理由補助表

(委員)

加圧機場の環境配慮対策の記載について、「加圧機場は農地に建設を予定しており、生態系への影響はない」、加圧機場では「農地に建設するため特段の環境配慮は予定しない」と書かれているが、生態系を軽視しているように見える。農地には農地の生態系があるため、生態系に影響がないと言い切ることは出来ないのではないか。

(農政局)

指摘を踏まえて資料を修正する。

(委員)

景観配慮について、貯砂堰堤はコンクリート構造物であるとの説明のみで、景観配慮に対する説明がないが、景観配慮をどのように考えているのか。

(農政局)

施工する段階で地元関係者と協議し、景観配慮について決定することとしているため、今の段階では考えていない。指摘を踏まえ資料を修正する。

(委員)

施工前と施工後の貯砂堰堤の写真は何を意味するのか。

(農政局)

写真はイメージとして例を示している。例を示して地元と調整して景観に配慮する。

(委員)

頭首工本体の景観配慮対策については、方針が書かれているが、貯砂堰堤に関する景観配慮について方針を書く必要はないのか。

(農政局)

貯砂堰堤の設置予定地の下流側はコンクリート護岸となっており、更に下流にある瀬江川頭首工もコンクリート構造物であることから、貯砂堰堤を新設することによる周辺景観への影響は軽微と考えられるため、特段の景観配慮は計画していない。なお、景観配慮については、工事実施段階において、地元関係者等と協議し決定することとしている。

(委員)

それであれば、何故、貯砂堰堤の写真わざわざ載せたのか。

(農政局)

イメージ図としてこの位置に貯砂堰堤ができるということで写真を付けている。文書については、指摘を踏まえ検討し修正する。

(委員)

スマート農業について、CO₂発生装置を導入していることのみではスマート農業とは言えないと思われる。ICT機器を用いたCO₂濃度のモニタリングや自動で環境制御・管理が行われているのであればスマート農業と言えると思われるが、この事例ではそのような営農が行われているのか。

(農政局)

温度、湿度、CO₂濃度を自動で管理しており、スマートフォンで複数の者が観ることがで

き、労力が軽減できている。表現を修正する。

(委員)

GPS トラクターについて、既に導入されているのか、それとも試験的な段階なのか。

(農政局)

試験的な段階であり、実用化には至っていない。

(委員)

実証段階のものを導入していると言っていいのか。

(農政局)

確認し、適切な表現に修正する。

(委員)

生態系の配慮について、蝶やトノサマガエルを類似環境へ移動させるのは誰が行うのか。

(農政局)

工事の施工業者が、生物を発見した段階で、周辺の類似環境に移動する計画としている。

(委員)

発見した生物の数や移動先を施工業者に報告させるのか。また、写真等で確認できるようにするのか。

(農政局)

工事計画書に記載し、生物の数や移動先等を報告してもらう予定である。

(委員)

生態系への配慮方策で代償措置と表現されているが、動植物の一時的な移植は、NN 事業の生態系配慮では影響の軽減・除去と定義されているのではないか。

(農政局)

確認し、指摘どおり修正する。

(委員)

チェックリストの農村の振興における小水力発電等の再生可能エネルギーの導入について、Bを付けざるをえないというのは分かるが、導入に適していないのに評価としてBになるという評価手法で良いのか。適していないものを無理に導入するということに繋がるのではないか。もう少しいくつかの評価項目が必要ではないか。

評価手法について、農水本省に意見をあげてほしい。

(農政局)

農水本省へご意見を伝える。

(委員)

特筆すべき農産物として、にら、ズッキーニ、お茶があるが、品質向上効果の中に、にら、ズッキーニ、お茶を入れていないのは理由があるのか。

(農政局)

品質向上効果については、実証実験で規格等の品質に差があると確認された品目のみ算定しており、にら、ズッキーニ、お茶は、その品質向上の試験結果がないので算定していない。

(委員)

将来的には、何か調査してデータを得るという予定はあるのか。

(農政局)

調査段階では品質に対する試験結果等についてのデータを得たいと考えている。

(委員)

お茶などはデータが取りやすいだろうから検討していただきたい。

(農政局)

お茶は、一番茶、二番茶、三番茶、荒茶、ブレンド等があり、品質での整理が難しい。

(委員)

維持管理費節減効果について、総便益額と年効果額が赤字になっているが、維持管理費をどのように使うことによって、高くなっているのか。

(農政局)

維持管理費節減効果は、新設整備と更新整備に分かれている。新設整備は、事業で新しく施設を造成することによって、維持管理費が軽減される額である。更新整備は、今ある施設の機能がなくなった場合、どれくらい維持管理費が変わるかを算定したものであり、今ある施設がなくなったら、今ある施設の維持管理費がいらなくなり、事業をすることで今の維持管理費が必要となることから、維持管理費がマイナスとなっている。

現地写真集

(委員)

ライチの栽培についてであるが、贈答品は1個いくらでまた1箱いくらで販売されているのか。それと販売実績とか教えていただきたい。

(農政局)

インターネットで、化粧箱9,720円と出ており、最もいいものだと1個1,000円と聞いている。

販売実績は調べていない。

(委員)

本地区の作物について、将来的には、マンゴーとライチを宮崎県で売り出していこうと考えているのか。

(農政局)

そのように聞いている。マンゴーからライチの栽培に切り替えた営農者もあり、新富町では町を上げて推進している。また、ふるさと納税の返礼品にも採用されていると聞いている。

(委員)

高級果物であるが売れているのか。

(農政局)

東京の高級スイーツ店や、デパートなど色々販売ルートを工夫し、売れていると聞いている。

(委員)

キウイフルーツのかん水装置の写真があるが、できれば次回でいいので、ライチのかん水方法、水管理などの基本的な情報などを教えていただきたい。

(農政局)

了解した。基本的情報を整理する。

(委員)

ライチの日持ち期間と輸出の有無を確認したい。

マンゴーより作りやすいという利点などもあるのか。

(農政局)

輸出はしていないと聞いている。2週間ぐらい日持ちするイメージである。

栽培技術はかなり必要で作るのは難しいと聞いている。

参考動画

(委員)

●●会社の概要について補足説明をお願いしたい。

(農政局)

経営面積は17ha程度で主な作物はキウイフルーツである。出荷先は、全量●●会社に出荷されている。

(委員)

甘藷の海外輸出をテレビ番組に取り上げられるなど、大変興味深い。期待している。

(委員)

ピーマン栽培でのCO₂発生装置の設定濃度はどれくらいか。

(農政局)

確認する。

(委員)

●●会社について、インタビュー動画で雇用の確保が出来ないため、収穫ロボットを将来的に考えているとあった。雇用の確保はかなり厳しいのか。これからの見通しとして厳しいということか。

(農政局)

実態として厳しいと聞いているが、ハローワークを活用し地元の方を集めたり、ミャンマーからの海外実習生を受け入れている。

(委員)

ミャンマーからの海外実習生にとって、労働条件が良いと考えてよいのか。それともこれから先は、なかなか海外から来てもらうのは難しいと考えているのか。

(農政局)

●●会社では、九州に八つの農場があり、海外の実習生についてはまとめて調整しているが、人数を増やすのは難しいと聞いている。

—以 上—